



第19回育友会奨励賞 9人と2団体
 左々木育友会長(前列左から2人目)と受賞者たち

学業やスポーツ、社会貢献などに創造的に取り組み、成果を上げた学生を表彰する第19回育友会奨励賞の表彰式が12月15日、神田キャンパスで行われた。個人9人と2団体に佐々木育友会長から賞状と奨励金が授与された。

石川雄也さん(経営1)は昨年9月、西日本豪雨で被災した岡山県倉敷市真備町にボランティアとして赴き、家屋の復旧作業を手伝った。被害の大きさはニュースで見

ていたが、実際に現地に行くとたくさん手がいることが分かった。専修リーダーシップ開発プログラム参加を機に、行動する大切さを学んだ。2月に再訪し、ボランティア活動を行う予定だ。

上原慎平さん(法3)はアルゼンチンサッカーを手にした子どもをサポートする。指導方針は「ほめて伸ばす」。マラドーナ、メッシなどを生み出した特別な指導法があるはずと、1年次に知人を介してアエソスアイレスの数チームで指導者研修を受けた。教わったのは「サッカーを教えるだけの指導者にはなるな。自分の人間性を磨け」。昨年4月から幼なじみの割谷将さん(二部法3)と東京都三鷹市で週一回、小学生12人に教えている。

沙(文2)「チアリーダーと社会知性」
 【個人】本田英寿(経済3)「ドイツサッカー留学で得たこと」▽上原慎平(法3)「アルゼンチンサッカーと人間教育」▽宮澤俊太郎(法4)「自ら骨を埋めたいと思える道を決めるまでの、激動

の大学生活4年間」▽村剛士(経営3)「3つの自己改革によって掴んだ栄光」▽石川雄也(経営1)「西日本豪雨復興作業」▽大関稔(商4)「私と囲碁」▽三好涼太(商3)「前を向くということ」▽鈴木渚々美(文4)「『ことば』の力を伝えていきたい」▽渡辺理

【団体】歴巡(代表1山口里沙・商3)「歴巡」
 ベトナム調査隊(代表1青木真美・商3)「人財としての外国人受け入れに対する現状と実態、課題と展望」

ボール型コントローラーを操作する来場者(沼・安藤プロジェクト)



ネット情報プロジェクト
 ネットワーク情報学部3年次生の必修科目「プロジェクト」の最終成果発表会が12月15日、生田キャンパスで行われた。今年度は28チームがグループワークで制作した作品を展示した。

沼晃介・安藤映プロジェクトは「遊ぶながら動物の生態を学ぶ4つの体験型ゲームを発表した。回して動かすボール型、足で操作するマット型などコントローラーが特徴的で、多くの来場者が体験した。9月には川崎市内で子ども向け体験会を開催。代表の大友瑞希さんは「もう一度やりたい」といった感想を聞き、とてもうれしかった。

飯田周作プロジェクトはVR(バーチャルリアリティ)作品づくりに取り組んだ。プレイヤーはVRゴーグルと一緒に低周波マッサージ器を腕に装着。視覚、聴覚に加えて触覚を刺激されるもので、来場者はリアルな体験を楽しんだ。

最終成果発表会

ネット情報プロジェクト

と、1年次に知人を介してアエソスアイレスの数チームで指導者研修を受けた。教わったのは「サッカーを教えるだけの指導者にはなるな。自分の人間性を磨け」。昨年4月から幼なじみの割谷将さん(二部法3)と東京都三鷹市で週一回、小学生12人に教えている。

巡してリーグ戦を行い、さらに上位チームによるファイナルシリーズで年間優勝が決定する。専修パワーズは今季、リーグ戦を8戦全勝しファイナルシリーズに進出した。

12月8日開催の決勝では、在日オーストラリア人中心でリーグトップの実力を誇る「東京ゴアナース」と対戦。激しいぶつかり合いとなったが、68-39で勝利した。63人の部員をまとめるキャプテンの長坂京平さん(人間科学3)は「連日、たくさん練習量を増やした。約1年間、

人中心でリーグトップの力を誇る「東京ゴアナース」と対戦。激しいぶつかり合いとなったが、68-39で勝利した。63人の部員をまとめるキャプテンの長坂京平さん(人間科学3)は「連日、たくさん練習量を増やした。約1年間、

AIの可能性を探ったのは尾形幹人プロジェクト。AIの音声認識、発話、翻訳の機能に着目し、日本語、英語、スペイン語、韓国語の会話を翻訳し、発話するツールを作った。開発には本学で学ぶ外国人留学生も協力。代表の原田拓海さんは「留学生の皆さんにテストしてもらって初めて分かったことが多く、ものづくりの難しさを実感した」と語った。

籐のピアス

企画・製造

商・神原ゼミ
 中石さん、井関さん、木下さん=写真左から



取り組んだのは3年次 香さん、中石千夏さんの3人。同ゼミでは企業やNPOと連携し、商品開発やプロモーション活動などを行っている。井関さんは「最初は先が完成した。籐は軽くて、大ぶりにしても耳に負担がかからない。水引と組み合わせることで、華やかさも出した。木内藤材工業が製造販売し、1月18日(金)から23日(水)まで新宿高島屋で開催の東京都伝統工芸展(東京都主催)で展示販売。ネットでも取り扱いは始める。」「ターゲットを若い女性にしぼり、どんな商品にするか、販売ツールをどうするかを自分たちで考え、実際に行動することほども刺激的だった」と木下さん。中石さんは初めてのデザイン、籐製品づくりに苦労したという。「パールなどを少しあしらうとシックになり和のテイストが強くなった。作る作業も大変だったが、楽しい時間でもあった」

井関さんは「最初は先が見えなくても諦めずに一つ一つ取り組んでいった。自分で限界を決めなことが大切だと学んだ」と語った。

神原教授は「実践的な

籐をベースにカラフルな水引をあしらったピアスを商学部・神原ゼミ生が企画・製造し、東京都伝統工芸品展に出品する。ネット販売も予定しており、若い女性に親しまれるアクセサリーの普及を目指す。

籐製品の製造販売をしている木内藤材工業(東京都文京区)を探し、実際に通って籐について学んだ。デザインに関して携し、商品開発やプロモーション活動などを行っている。井関さんは「最初は先が完成した。籐は軽くて、大ぶりにしても耳に負担がかからない。水引と組み合わせることで、華やかさも出した。木内藤材工業が製造販売し、1月18日(金)から23日(水)まで新宿高島屋で開催の東京都伝統工芸展(東京都主催)で展示販売。ネットでも取り扱いは始める。」「ターゲットを若い女性にしぼり、どんな商品にするか、販売ツールをどうするかを自分たちで考え、実際に行動することほども刺激的だった」と木下さん。中石さんは初めてのデザイン、籐製品づくりに苦労したという。「パールなどを少しあしらうとシックになり和のテイストが強くなった。作る作業も大変だったが、楽しい時間でもあった」

井関さんは「最初は先が見えなくても諦めずに一つ一つ取り組んでいった。自分で限界を決めなことが大切だと学んだ」と語った。

神原教授は「実践的な

専修パワーズV2

オージーボールトップリーグ



V2を果たし喜びを爆発させる専修パワーズのメンバー

授業を通して、学生の自主性を育てたいと思っての学生にとっても刺激になっている。今回の企画は予想「なったと思う」と話した。

グリーンゲイブルズ



中垣 恒太郎 文学部教授

『赤毛のアン』(Anne of Green Gables, 1908)の舞台となったカナダのプリンスエドワード島は、日本からの訪問客も多い人気の観光地である。モデルになった家「グリーンゲイブルズ」には、アンをはじめマリラやマシューの部屋もあり、本当にアンのお家に遊びに行っているような感覚を楽しむことができる。独特の赤土や緑豊かな光景、「輝く湖水」(Lake of Shining Waters)など、街全体がさながらテーマパークであるかのようだ。

アニメのロケ地をめぐる「聖地巡礼」が地域振興などさまざまな観点から注目されているが、外国語学習においては私たちそれぞれが「聖地」を持つことができるかどうか、実はとても大事なことである。パイブルとなるほど特定の物語に深く入り込むこと

で、見知らぬ外国がより身近なことばや文化になる。さまざまな物語から私たちは人々の暮らしや心情、風景、社会のあり方や歴史、課題など数多くのことを学ぶことができる。グローバル化や多様性が叫ばれる一方で、実はローカルな世界をめぐるさまざまな状況、人々の暮らしは見えにくくなっている面もある。人生のあり方は決して一様ではない。

外国旅行は大学生にとって簡単ではないかもしれないが、大事な物語を持つことでいつか行ってみたいという想いを育むことも有効であろう。思い入れのある物語を在学中に持つことができるならば、将来、自分の足跡をふりかえるよりどころにもなる。さまざまな外国の物語に触れることで自分だけの「聖地」を見いだしてほしい。(比較メディア文化研究) ※短縮版。全文はCALL教室ホームページで。

「聖地巡礼」のすすめ